

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 1 月 19 日作成)

小委員会名	都市づくりプラン研究小委員会	主 査 名：中西 正彦 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：野嶋慎二
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的) 人口減少・社会経済の停滞が問題となる今、規制緩和による都市開発誘発の一方で、都市に関するビジョン・プランの意義と役割はこれまでと異なる重要性を帯びつつある。今日、都市計画マスタープラン等都市空間形成に関わる様々な領域のプラン(総称として都市づくりプラン)が、法定・非法定あるいは都市全体から地区レベルのものまで幅広く存在するが、その制度と実際のプラン策定・運用は再考が必要な時期に来ている。本小委員会では、広く都市空間形成に関わるプランを対象とし、その意義と役割、今日のプランに関する制度、策定されているプランの体系や実態等を調査研究することで、今後の都市づくりプランのあり方を議論・提示することを目的とする。</p> <p>初年度： <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催(春・夏・冬)：研究方針に関する検討・事例の収集 ・合同見学会・ヒアリング調査の実施 ・学会大会にて OS の実施 </p> <p>2年度： <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催(春・夏・冬)：事例発表を通じた基礎的情報の共有課題整理 ・学会大会にて OS の実施 ・合同見学会・ヒアリング調査の実施 ・公開シンポジウムの実施 </p> <p>3年度： <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催(春・夏・冬)：目標都市構造像と実現手段との乖離状況の把握 ・学会大会にて OS の実施・PD の実施 ・合同見学会・ヒアリング調査の実施 </p> <p>4年度： <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催(春・夏・冬)：新たな制度設計に関する提案検討 ・合同見学会・ヒアリング調査の実施 ・学会大会にて OS の開催 ・公開シンポジウムの実施 </p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無し</p> <p>主査：中西正彦(横浜市立大学) 幹事：姥浦道生(東北大学) 幹事：柴田祐(熊本県立大学) 幹事：松川寿也(長岡技術科学大学) 幹事：小林俊樹(北九州市立大学) 委員：星卓志(工学院大学) 委員：桑田仁(芝浦工業大学) 委員：原田陽子(福井大学) 委員：眞島俊光(㈱日本海コンサルタント) 委員：尹莊植(横浜国立大学) 委員：藤岡麻理子(國學院大學) 委員：荒木笙子(東北大学) 委員：坪井志朗(長岡科学技術大学) 委員：杉田早苗(岩手大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2023 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： https://mattsul.wixsite.com/website

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	1. 研究協議会「今、都市に関するプランの役割と機能を考える」を開催 2. （オーガナイズドセッションを地方都市拠点デザイン小委員会と共同開催）
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得ら れた成果との関係）	1. 開催回数について、オンラインを活用しつつ5回の開催予定を年度末までに実施できる予定であり順調である。 2. 大会において都市計画部門の研究協議会「今、都市に関するプランの役割と機能を考える」を企画・開催し、これまでの議論を踏まえた討論と、今後の小委員会活動に対する重要な示唆を得ることができた。 3. 論点抽出についてはおおむね想定通り進んでおり、それを踏まえて次年度最終年度の成果刊行物出版に向けて、企画の具体化を進行中である。
委員会活動の問題点 ・課題	1. コロナ禍対応後のオンライン実施は、地方に居住する委員間のコミュニケーションをむしろ促進した面があるが、一方で直接の交流の機会を適切に設けることが今後の課題である。 2. 最終年度4年目を迎えるにあたって、小委員会活動期間中の具体的な研究成果を議論し、活動の一層の具体化活発化が課題である。